

令和2年度経営評価委員による年度末評価

◎：よい点 ◇：期待・継続の要望 ■：改善点・助言

1 令和2年度事業についての意見・感想

| | |
|--------------------|--|
| <p>経営全般</p> | <p>◎ 教員のキャリアステージに応じた基本研修に加え、多彩な専門研修により、適宜、学習指導力、生徒指導力、特別支援教育力の向上が図られる研修体系となっていると評価する。</p> <p>◎ オンライン型研修へ踏み出したことは高く評価する。各学校はGIGAスクール構想の前倒しで、一人一台のタブレットのみならず、高速大容量のデータのやり取りができるWi-Fi環境も整備され、急速にICT化が進んでおり、完全なオンライン型研修が可能となっている。様々な教育コンテンツ配信も含めて、今後の県教育センターの意欲的な取り組みに期待する。</p> <p>◇ 新型コロナウイルス感染防止への対応で大変な一年だったと思われる。</p> <p>◇ ICTサポートチームを発足させ、研究していることについて、その具体を広く共有していただきたい。</p> |
| <p>研修事業</p> | <p>◎ 研修講座全体評価で、参加者の満足度の高さが研修の必要性を表している。</p> <p>◎ コロナ禍にあって、研修事業の形態を変えながらも、さまざまな工夫のもとで進めていただいたことに感謝と敬意を表する。</p> <p>◎ オンライン型研修など、今学校現場に求められている研修を実施したことについて、「大変勉強になった」という声を多数聞いている。</p> <p>◎ 初任者研修の見直しをしていただいたことに、感謝申し上げる。校外研について、日数を減じていただいたこと、その中でも課業日を減じていただいたこと、課業日においても午後からの開催を中心にしていただいたことは、働き方改革の面からも、初任者を学校で育てるという面からも、とてもいい見直しをしていただいた。</p> <p>◎ 新型コロナウイルス感染症対策をしながら、研修方法等について柔軟に対応するとともに、リモート研修の参考となる事例を提供していただき、実際に研修に取り入れることができた。</p> <p>◇ 研修講座 210「ICTを活用した授業づくり講座」は、今後ますます求められる研修内容だと思うので、門戸を広げて、質の高い、効果的なオンライン授業のできる指導者を増やしていくことが大事だと思う。</p> <p>◇ コロナ禍における研修は様々な制限がかかり、運営に苦労したと思われる。オンライン型研修での実績を積んでいただき、現場での実践にも生かしていただきたい。</p> <p>◇ 年度当初の休業期間中における初任者研修の代替実施（各校での研修とレポートの提出等）については、（組合交渉等を通じ）意見のでていところであり、研修教材の工夫や各校の状況把握と意見聴取のもと、今後に生かしていただければと思う。</p> <p>■ 研修講座の受講者数等の評価アンケートの集計を見ると、約1%強(R1やH30は0.2%程度)の方が「C あまりよくない」「D よくない」と評価している。どんな点でそう感じたのか。自由記述があれば、その視点から課題が見えると思うが、その情報はあるのか。極少数の意見に耳を傾けることが大切である。</p> <p>■ 資料3-3について、充足率にかなり差がある。低率のものについては、コロナの影響もあるのかもしれないが、必要性、時期等、見直しが必要ではないか。100を超えるものについても、検証と今後の対応を検討する必要があるのではないか。</p> <p>■ 研修講座 102「中・義初任者研修⑧」の受講者評価の中で、「D よくない」と評価した受講者が4名もいたことに疑問を感じる。「初任者」が「よくない」と評価する研修内容はどんな内容だったのか、検証の必要があるのではないか。</p> <p>■ コロナ禍において、先生方を研修に出しにくい、又は講座自体が中止になったものがあり、研修機会の保障が課題になる。（許可を得た上で、実施した講座・講演を配信することも可能ではないか。）</p> |

| | |
|---------------------|--|
| <p>相談・支援 事業</p> | <p>特別支援教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 研修講座 121「特別支援学級新任基礎研修」は、申込者、受講者が相変わらず多い。初めて支援学級を担当する方々を、誰が、いつ、どのような研修形態で支援していくかは、継続した課題になっている。 ◇ 相談業務の「にこにこ相談」は、早期からの支援として継続する必要があると感じている。件数の推移はあるが。 |
| <p>その他</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 特別講座では、オンライン型研修の可能性が見えてきたと感じている。工藤勇一氏の講話には本校から「Zoom」で参加したが、非常によかった。当日は勤務不要日だったが、学校に居ながらにして「質の高い」講話をライブで聞けることはICT機能の賜であり、旅費の縮減や移動時間の短縮にも繋がる。できれば、質問タイムがもう少しあった方が双方向になったと思うが、まずは成功と言える。 ◇ 教員の研修機会の担保が叫ばれている中、「カリキュラムサポートプラザ」は学校にとって大変有り難い取組みである。更なる充実を期待する。 |

2 令和3年度への取組みについての意見・感想

| | |
|-------------|--|
| <p>経営全般</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 今年度の新型コロナウイルス感染症への対応で実施した様々な工夫や変更について、「新しい生活様式」の観点から総括し、教職員の業務の効率化や負担の軽減になるものは、この機会にぜひ、来年度以降も継続して実施していただきたい。 ◇ 本県の教員として、必ず知っておかなければならない本県の教育振興計画や指標について理解するため、各講座に関わる内容の教育計画における位置づけの説明やキャリアアップシートを活用するなどの機会を増やしていただきたい。 ◇ 県立高校では、ICT環境の整備を推進し、今年度大きく前進することができた。新学習指導要領に適合した授業改善に資するものであり、これを活用した授業づくりが、学校間で較差なく進められる必要がある。令和3年度はこの点に特化し、研修の充実や出前講座の働きかけなど、県教育センターには中核としての役割を期待したい。各校の実態把握を行いながら、指導力を発揮していただければと思う。 ◇ 「ICT教育アクションプラン」に基づき、関係課、部局との連携のもとICT教育の推進に主導的な役割を發揮していただければと思う。 ■ 新型コロナウイルス感染症が収束する見通しがもてないため、先手の対応が必要と思われる。高校の校長同士でも「Zoom」を使って相談を行うなどの工夫をしている中、県教育委員会が主催する研修等においても、何らかの手立てを早急に行う必要があると思われる。 |
| <p>研修事業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 引き続き、時代の変化や要請に即した研修事業をお願いしたい。 ◇ 充足率が100%を超えている講座は、やはり時代のニーズを表している。探究や総合的な学習(探究)の時間、外国語活動、ICT活用、保護者対応、発達障がい等、すべて現在の現場の課題である。今後もニーズに合わせた開講(量と質)を願う。 ◇ 今年度、模索しながら蓄積した「オンライン型研修」等の知見を生かし、働き方改革にも資する研修の在り方をさらに進めていただきたい。 ◇ 「オンライン型研修」「ハイブリッド型研修」など、新たな取組みに対する期待と不安がある。情報共有をしっかりと行っていただきたい。 ◇ まだまだコロナ禍であるが、研修は大事なことであり、計画、企画、実施をすすめてもらいたい。特にICT関係については、まだまだ未熟な教員が多い。 ◇ 経験者研修対象者のリストアップについては、遺漏のないよう連携をお願いしたい。特に、令和3年度から始まるステージアップ研修の受講対象者は、年々複雑になっていくので、確実な受講確認を行いたい。そのためにも、教職員課と県教育センターとの連携も十分に図っていただきたい。 ◇ 2年次フォローアップ研修などの研修体制が大きく変わっていくので、スムーズ |

| | |
|-----------------------|--|
| | <p>な移行が図られるように、県教育センターとの連携を密にさせていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 集合型研修のよさ、オンライン型研修のよさを研修内容に応じて精選し、実施することが教職員の資質向上につながると考える。 ■ 対面でこそ意義のある研修も引き続き必要だと思うが、併せて、オンライン型研修の充実をぜひ進めていただきたい。特に、オンライン受講を促進するための勤務校の環境整備や、教員のリテラシー習得支援が急務と思われる。 ■ 幼児期から小学校に学びがつながるとはどういうことかについて、理論+実践的な学びの場が必要である。(教員が子供の学び、育ち、発達を学ぶ機会が必要) ■ 山形県や村山管内の課題である英語教育に関する研修(研修講座202事項)、特別支援教育に関する研修(研修講座213「特別支援学校における授業力アップ講座」)の内容の検討、言語通級指導者育成に関する研修についての講座の計画的開催が必要である。 |
| <p>研究事業</p> | <p>◇ 評価で使える「探究力」を測ることのできる「問題」や教科固有の見方・考え方を測る「問題」を開発できないものか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 校長会から指摘があった「探究型学習によって確かな学力を育成する授業づくり」の文言の精査については、「探究型学習」が新学習指導要領を先取りした形で導入された背景からすると、今年度から新学習指導要領が小学校で全面实施となったことを契機に、新学習指導要領に基づいた授業実践によって確かな学力を育成していくという路線にシフトしてよいのではないかと考える。『「探究型学習等」により』という整理も一つの方法である。 ■ 「不登校対策について」の研究(令和2年度から3年間)の中で、「不登校を生まない学校づくり・学級づくり」に加えて、「家庭づくり」についてもPTA連合会とともに調査研究はできないものか。そして、学校の取組みに対し、保護者・家庭・PTAとしての支援行動として組み込めないか検討いただけたらありがたい。 |
| <p>相談・支援事業</p> | <p>◇ 特別支援学校にもICT環境の整備が進められている。「ICTの活用」の観点についても計画されている研修の中に組み入れていただけると参考になると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ベテラン教員の大量退職という状況に合わせた教員研修の充実が早急に求められる。特に、言語通級指導教員の育成・養成は、喫緊の課題であり、通級指導の維持・存続にもかかわる大きな問題であると捉えている。言語通級指導は、しっかりとした知識・理解と確かな指導技術を有していなければ成り立たないが、言語指導の技術は一朝一夕では身に付かない。これまでは、各学校にいるベテラン教員の自主的な校内研修(OJT)で何とか知識や教育技術の伝達が行われてきたが、ベテラン教員は順次退職し、校内での研修が十分に機能しなくなる事態となってきた。このような切迫した学校現場の状況を理解の上、言語通級指導教員の養成研修の実施をお願いしたい。 <p>養成研修が計画されれば、市町村の教育委員会並びに、県連小校長会、各市町村校長会は、参加者の選抜・派遣等については責任をもって協力したい。また、言語通級指導教員は、平日午前の研修に比較的参加しやすいと捉えている。(午後は他校の児童の指導時間だが、午前中は現任校の児童の指導や通常学級のTTとして指導することが多い。現任校の指導については比較的融通しやすいため、平日午前の研修は可能である。)</p> |

3 県教育センターへの期待や要望

| | |
|-------------|--|
| 研修事業 | <ul style="list-style-type: none">◇ CS導入成功の一つのポイントは、「地域学校協働活動推進員」である。その養成を手がけてみてはどうか。時代に添う県教育センターであって欲しい。◇ 学校事務の連携・共同実施の推進のための研修（管理職と学校事務職員を対象）の企画を望む。◇ 動画配信などを利用するなどして、校内で研修できるようお願いしたい。学校を空けての研修はなかなか厳しい状況にある。職員会議後や長期休業中に研修できるようになれば校長として大変ありがたい。（昨年度同様）今年度コロナ禍だからできた研修スタイルを、コロナ収束後も継続して欲しい。◇ 大量採用時代を迎え、若い教員に具体的場面に応じた生徒指導の研修を実施していただきたい。保護者対応や生徒への対応の仕方（ロールプレイ）など。大学の先生の講義形式よりも、より実践的な研修に期待したい。◇ 秋田県では、来年度中に全ての高校の普通教室に大型提示装置を、全ての高校生にタブレットを整備する計画があると聞いた。小中学校のGIGAスクール構想もあり、ICT活用スキルの研修は全教員に必要となる。早期の準備をお願いしたい。◇ 現場の教員の声やニーズ・課題に即した研修内容の企画と、受講を支援する体制の整備をこれからもお願いしたい。長期的な視野で、教職を目指す子どもが増えるような教師の育成を、ぜひお願いしたい。◇ ニューノーマルな生活、学習は今後とも継続要求されると予想されるので、オンライン型研修を進めながら、指導者がオンライン型研修を通してオンライン授業ができる人材を増やしていただきたい。◇ 小中学校事務職員の研修の充実について<ul style="list-style-type: none">・ チーム学校のキーワードのもと、特に小中学校では学校事務職員に求められる業務が多様化していることから、研修の必要性が生じていると感じている。（小中学校事務職員の団体等からも事務職員の研修を求める声が増えている。）・ 現在、小中学校では「学校事務の連携・共同実施」をモデルグループで試行しており、その中でリーダー的な立場の人を講師にするなどして研修を計画することも、事務職員の研修ニーズに対応することになると考える。・ OJTの推進は必要性を認めるものの、学校現場の効果的な取組みに向けた状況把握と指導をもとに、実のある研修となるよう引き続きお願いしたい。◇ 先生方に負担をかけずに、悉皆研修の受講漏れが生じないような方策を取れるようにしたい。研修履歴管理システムの構築を検討していることは、大変ありがたいことである。研修講座における電子申請システムのような運用を検討願いたい。■ 県教育センターの研修対象者を「教員」から「教職員」へと広げていただきたい。「事務に従事する」から「事務を司る」と職務規定が明確化された事務職員は、山形県では、「指標」が示されず、研修の機会も十分とは言えない。ベテラン事務職員の大量退職に伴い、若手事務職員が増えていく中、チーム学校の有力メンバーである事務職員の資質向上は喫緊の課題である。他都道府県では、事務職員研修の充実が図られることが増えてきている。本県の研修体系にも「事務職員」を入れ、学校事務職員の研修の充実を図っていただきたい。尚、この件については、「山形県の教員研修体系」に関わることなので、県教育委員会の所管事項となる。<p>山形県市町村教育委員会協議会では、県連小校長会・県中校長会の理解と支援のもと、山形県教育委員会へ直接、要望しているところである。県教育センターでも、事務職員も含めた教職員研修の必要性について、ご検討いただきたい。</p>■ 研修が本県教員の資質向上に効果を上げているかの検証が必要である。今後は、研修所管事業所や担当課において、山形県教員「指標」を活用して、各自の取組みの成果・課題を整理することを取り入れていただきたい。※ 今年度は、中堅教員を対象として、「指標」を活用した調査をセンターにおいて |
|-------------|--|

| | |
|---------|--|
| | <p>行っていただいた。(年度末に、新採教員を対象とした同様の調査を予定) 調査結果を基に、成果・課題について検証するために、毎年度調査が必要と考える。(講座がよかったかどうかを問うアンケートだけでなく、教員としてどのような資質が向上しているかを把握し、研修事業を自己点検・評価することが必要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 6 教振（後期計画）に基づいて作成している ICTアクションプランの方向性や GIGAスクール構想の動きも踏まえ、教員の ICT活用指導力が向上する研修カリキュラムや講座内容の充実が必要である。 ■ 参集しての研修機会の確保は、今後更に難しくなる状況であることを踏まえて、OJTの講座のみならず、各講座の内容が校内OJTにつながる事が重要である。「～の授業づくり」といった講座においても、授業の質の向上に取り組む際に、校内での自身の役割を考える等、授業方法にとどまらない研修内容の充実が必要である。 |
| 相談・支援事業 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 教育センターのホームページに、特別支援教育にかかわる基礎知識等のコーナーのようなものがあるとよい。特別支援教育に初めてかかわる人、ちょっと興味を持った人にもわかりやすいコンテンツがあると、自分の時間で学べる機会ができる。また、管理職のための基礎講座もあるとよい。 ■ 支援学級の担任、通級指導教室担当教員、通常の学級で支援を要する子どもを担当している教員が、それぞれどのようなニーズがあるのかを把握して施策、制度設計が必要と考える。 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 県立としては唯一の機関であり、教員の資質の向上のため、施設・設備の改善を含め、多くの予算をいただけるようになればと思っている。 ◇ 伝統ある「山形教育」を、ぜひ保護者・一般県民・市民も手軽に読んで学んだり、情報を得たりすることができる方法を開発していただけたらありがたい。 ■ 令和2年3月の通知以来、講堂の施設利用について最大50名が続いている。感染拡大の状況に応じて最大収容人数を引き上げる（レベル1…○人、レベル2…○人、レベル3…○人）など、状況に応じた対応ができればお願いしたい。 |